

「Meet the expert! —そこが知りたい在宅ケア—」
Keio SFC Academic Society, Research Grant 2024 (E) 報告書

日時・場所：第29回日本在宅ケア学会学術集会（2024年8月24・25日於鎌倉芸術館）内で実施。
①8月24日(土)13:30～14:30 ②8月25日(日)13:30～14:30 於鎌倉芸術館会議室1

登壇者：

- ① 小早川有子氏（居宅介護支援事業所 藤の実 主任ケアマネージャー）
彦坂陽子氏（メディケアクリニック石神井公園 管理栄養士）
- ② 澤朋希氏（訪問看護ステーション ワースリビング座間 理学療法士）
遠藤裕子氏（医療法人徳洲会湘南鎌倉総合病院リハビリテーション部 言語聴覚士）

スペシャルサポーター：

- ① みほとけ氏（浅井企画） ② 柏木ハルコ氏（漫画家）

企画運営：（敬称略）

学部学生：樋口大樹（看護医療学部4年、②参加）、伊東英恵（同3年、①②参加）、下野はんな（同3年、①②参加）、
中村優花（同3年、①②参加）、櫻間あかり（同2年、②参加）

担当教員：平野優子、真志田祐理子（いずれも看護医療学部）

事務局：永田智子、山本なつ紀、水井翠（いずれも看護医療学部）

企画趣旨：

在宅ケアに関して初学者である学部生や、様々な領域について知見を深めたい若手の参加者を主なターゲットとして、様々な職種の専門家を招いて、業務の実態やその職種の魅力についてフランクに語っていただき、在宅ケアの幅広さや面白さを実感してもらうこと。

事前打ち合わせ：

- ・6月24日（月）10:15～11:00 対面（事務局、担当教員）
- ・7月31日（水）9:00～10:00 オンライン（学生、担当教員、事務局）
- ・8月1日（木）18:00～18:30 オンライン（学生、担当教員、事務局）
- ・このほか、メーリングリストやSNSを用いて情報共有や検討を実施

当日の運営状況：

〈参加者〉

- ① 登壇者2名・スペシャルサポーター含め合計約20名
フロア参加者：延べ12名（中堅専門職、若手専門職、学部学生（看護学部、医学部1年））
運営スタッフ：学生3名、教員3名、フロア担当教員・学生計2名
- ② 登壇者2名・スペシャルサポーター含め合計約16名
フロア参加者：延べ9名（熟練専門職、若手専門職、学部学生（看護学部））
運営スタッフ：学生3名、教員2名、フロア担当教員・学生計2名

〈スケジュール〉

- 1. 登壇者の自己紹介 各10分 計20分（各自パワーポイントを使用して説明）
- 2. アイスブレイク 10分（スペシャルサポーターが進行）
- 3. トークセッション 20分（司会学生が進行（①下野さん ②下野さん・櫻間さん））
- 4. フリーセッション 10分（同上）

〈当日の状況〉

- ・両日とも、登壇者の自己紹介で約25分程度費やしたが、学生司会が臨機応変に対応し、フロアからの質問への登壇者による回答が十分に行われる形で、ちょうど1時間で終了した。
- ・①では、4名の参加者より挙手にて質問が出た。施設で働く若手職員、看護学部学生、医学部学生より質問が出た。②では、2名の参加者より挙手にて質問が挙がった。両日ともに、全員の企画運営学生からも個人的体験を通して気づいた質問が次々と挙がり、登壇者より具体的事例を用いて1件ずつ丁寧に説明をもらった。
- ・スペシャルサポーターには、場の雰囲気や和むような働きかけをしてもらった。①では、周辺に在宅ケアが必要な親族等がおらずイメージがつかめないなか「在宅ケアの魅力や理想は何か」と素朴な疑問が投げかけられ、若手専門職や学生は共感をもって考えることができたと思われる。②では、生活保護の漫画を描き続けるなかで気づいた「在宅生活の希望は増えてきているが地域で暮らす受け皿は果たしてあるのか」と鋭い質問が投げ

かけられ、現場で働く熟練専門職と一緒に現代社会の課題を共有し、全体でディスカッションした。

〈成果と今後の活用〉

- ・両日ともに、在宅ケアに携わる様々な専門職の話を聞くなかで、多職種連携のあり方、情報共有のあり方、意見のすり合わせの仕方、それぞれの職種に求めること、現在の社会問題への各専門職の関わり方など、幅広いなおかつ深いディスカッションができたと思われる。
- ・「学生企画」の名前のとおり、学生が主体的に事前準備を丁寧に行い、当日も司会進行役、そして自身も参加者の一人として率直な質問を出し合い、各専門職から具体的な回答が得られるとともに、これからの人生や生活への温かく力強いエールがたくさん送られた。学生ばかりではなく、参加した専門職、企画運営担当教員もまた、多くのエネルギーと学びを得ることができたことが参加者全員の表情から読み取れた。
- ・学生からの感想は以下の通り（抜粋）
 - ・初めて学会に参加させていただき多くの学びを得ることができました。看護職以外のエキスパートのお話を伺い看護師として求められていること、在宅の魅力を知ることができました。在宅の分野に興味があるものの将来在宅の分野に進むことに不安を感じていましたが、現職の方々のお話を聞き、卒業後在宅の分野に進むという新たな選択肢を獲得できました。
 - ・Meet the experts では対面かつ少人数にしたことで普段大学の授業では躊躇ってしまうことも直接質問することができました。当日の会場には他の学生さんも多く見かけたので宣伝の工夫をして自分たちとは異なる環境で学んでる方々との交流の機会を持ち、また他校の学生の方にも直接専門職の方に質問をする機会が作れたらよかったと思いました。
 - ・ケアマネージャー、理学療法士、管理栄養士、言語聴覚士の4名及び特殊な経歴をお持ちのスペシャルサポーターの方のお話を伺う事ができ貴重な経験となりました。実際の在宅の現場をよく知るエキスパートの方と今回の様な形でフランクにお話しする機会はなかなか得られないため、普段の学内の授業とは異なり学生からも多くの質問をすることができましたし、勉強にもなりました。看護学生として、他職種の役割をきちんと知った上で今後の実習に参加することが出来るのは強みになると感じました。
 - ・私自身在宅に特段興味があったというわけではないのですが、実際に働かれている方からのエピソードを伺った事で在宅ならではの魅力を知ることができ、キャリアの一つの選択肢として在宅もありなんだ！と感ずることができました。
 - ・今回初めて学会に参加させていただき、たくさんの学びを得ることが出来ました。学会というと敷居が高く、興味があっても一歩踏み出せていなかったのですが、今回の企画はそんな学生に対してもハードルが低く、学会という場所を身近に感じやすい場所であったと感じました。実際にこの企画に参加してみて、大学の講義の中では多職種の在宅の仕事に関して詳しく学ぶ機会が少ないため、準備段階ではどのような方々なのかイメージが湧かず、準備に苦戦してしまいました。しかし、実際に当日事前の打ち合わせをしながらお話を聞いてみることで、具体的なイメージが湧き、企画の中でも事前に想定していた質問ではなく、個々に興味をもった質問をすることができ、企画する学生にとっても有意義な機会でした。
- ・本活動を通して、学生達にとって在宅ケアが教科書やニュースの中の出来事ではなく、より具体的に身近な事象であるという認識の形成を促し、自分事として今後のキャリア形成の際の参考となったと考える。また、多職種が集うことで、在宅ケアの魅力に気づき、在宅ケアを多角的な視点から言及し考える絶好の機会となり得た。さらに、学会という場に主体的に参加して、多様な参加者と交流を行うことの面白さを味わえたことにより、今後の活動に向けたモチベーションになったことが考えられる。

以上

関係者集合写真
(学生・登壇者・
サポーター・教員)

左：8月24日、
右：8月25日

